

インソース×RIAM “プレ”MBAプログラム

神戸大学MBA教授陣に学ぶ 経営学の実践知

東京・有楽町開催

2026年10～11月 毎週金曜日開講

全8科目(選択受講可) / 1科目1日で修了

新 経営哲学

マーケティング

新 ビジネスデータ分析

財務会計

組織行動論

ビジネスエコノミクス

戦略論

技術経営(MOT)

※MBA取得に関わる単位の認定はございません

「自己流」のマネジメントに
確かな「理論」という自信を

第3期
募集開始

「MBAは難解で、時間もかかるもの」

— そんな先入観を覆すプログラムを、今年も有楽町で開講します

本プログラムは、日本屈指の歴史を誇る神戸大学 MBAの教授陣が、その膨大な知見を、ビジネスの最前線で戦うビジネスパーソンのために、「初学者でも1日でエッセンスを学べる」よう編成した特別な“プレ”MBAプログラムです。2024年のスタート以来、すでに298名のリーダー・マネージャーが「自身の視野や判断軸のアップデート」を体感しています。

3年目を迎える2026年度は、戦略論やマーケティング、財務会計といったMBAのコア科目に、近年注目が高まる経営哲学、ビジネスデータ分析の2科目を加えた、計8科目※で開講いたします。※1科目から受講いただけます

<第1～2期受講者(298名)の声を一部ご紹介>

先生のフィードバックが非常にためになった。大学教授の講義なので、もっとお勉強チックになるのだと考えていたが、ビジネスに直結する例が多く出ており、すぐに自分の仕事に活用できる内容が多くあった。(2025 マーケティング受講)

マネジメントにおいて“多様性への理解”が必要だと思っていたが、それがいかに「表層的」なものに過ぎないか、よくわかった。特に、“健全な”コンフリクトを恐れることなく、いかにそこから学んで経営に活かして行くべきか、というのが一番の学び。(2025 組織行動論受講)

何気なく使っているような要素も、その原理を理解できたので、より深く考えられました。値付けなどの面で雰囲気ではなく、理論的な判断ができそうです。(2025 ビジネスエコノミクス受講)

これまでなんとなくだったところが数値で確認できて良かったです。財務諸表による経済活動の流れがとてもわかりやすく、最初は不安だったのですが、理解できました。(2025 財務会計受講)

戦略というものは経営者が考えることだと思っていましたが、私たちの立場でも、個人レベルで考えていくことが大事なのかも思いました。とても楽しい講義で、もう少し時間があれば良かったです。(2024 戦略論受講)

技術経営の成立の歴史から、イノベーション、両利きの経営の具体例についても様々学べて、非常に有益な時間でした。自社の成長のために新しいチャレンジをしていく際の進め方、マーケットの分析やコア技術の見極めなどを活かしていきたいと思います。(2024 技術経営受講)



新科目 経営哲学

10.2(金)

東洋思想から学ぶ、「正解のない経営判断」のための知恵

不確実な状況での自身の意思決定を「儒教」「陽明学」「老子」などの思想・哲学的視点を手掛かりに捉えなおす

西洋哲学は概念を積み上げ順に理解する体系であるのに対し、東洋思想は簡潔な言葉で本質を示し、多様な解釈を許容します。この特性は、正解のない不確実な経営環境において有効です。本研修では、儒教・陽明学・老子などを手がかりに、秩序・主体・関係・勢いの四視点から意思決定を再構成し、状況に応じて判断を生み出す実践的な判断軸の獲得を目指します。

<特におすすめ>役員・マネージャー・リーダーの方



原田 勉 神戸大学大学院経営学研究科 教授

Ph.D. スタンフォード大学、博士(経営学)神戸大学

1997年神戸大学経営学部助教授、2005年より神戸大学大学院経営学研究科教授。専門分野は、イノベーション、経営戦略。経済学・認知心理学・脳科学的な学際的アプローチでイノベーションや創造性について探求している。

マーケティング

10.9(金)

起業家的機会をとらえるエフェクチュアル・マーケティング

起業家の思考様式から導き出された、今ある手段や関係性を起点にイノベーションを生み出す5つの行動原則

オーバービューでは、現代のマーケティング論の骨格と全体像を押さえます。コアでは、戦略計画的な発想が強かったこれまでのマーケティングの理論を補完する新たなバックアップ回路として、近年注目度が高まっているエフェクチュエーションへの理解を深めます。あわせて戦略計画的なマーケティング発想とエフェクチュエーションとの関係についての理解を、ケース討議などを通じて深めます。

<特におすすめ>販促、マーケティング、新規事業開発担当の方



栗木 契 神戸大学大学院経営学研究科 教授

博士(商学)神戸大学

1997年岡山大学経済学部講師。2003年神戸大学大学院経営学研究科助教授、テンプレ大学フォックス校客員研究員などを経て、2012年より同教授。専門分野は、企業家マーケティング、新規事業開発、ブランド・マネジメント。

新科目 ビジネスデータ分析

10.16(金)

データという迷宮を、あるべき場へと接続する手法と実践

オープンデータ×社内データ×生成AIの活用で、エビデンスに基づく経営(EBM)を実現する手法を学ぶ

本講座では、書籍『Python ではじめるオープンデータ分析』で解説した手法を軸に、社内実績の分析(内向きの視点)に「オープンデータ(外向きの視点)」を掛け合わせ、ビジネスの解像度を劇的に高めるアプローチを提示します。単なるツールの習得に留まらず、Pythonを「論理を構築する筆記具」として、生成AIを「仮説の矛盾を突く批判的パートナー」として定義。最新のテクノロジーを駆使しながら、エビデンスに基づく経営(EBM)を実践するための「問いを立て、検証する作法」を、ワークショップ中心の構成で体得します。

<特におすすめ>データ分析、戦略立案担当、経営企画部門の方



原 泰史 神戸大学大学院経営学研究科 准教授

修士(経済学)一橋大学

2012年一橋大学イノベーション研究センター特任助手、2015年政策研究大学院大学科学技術イノベーション政策研究センター(SciREXセンター)専門職、2018年フランス・パリ社会科学高等研究院日仏研究センター(CEAFJP/EHESS)ミシュランフェロー、2019年一橋大学大学院経済学研究科特任講師を経て、2022年4月より神戸大学大学院経営学研究科准教授。専門はイノベーションプロセスの分析、産業組織論。

財務会計

10.23(金)

ビジネスパーソン共通言語である財務諸表の体系的な理解と分析手法

難解な財務諸表を1からわかりやすく丁寧に解説。基本構造と収益性分析を学び、企業の現状と課題を読み解く

英語やプログラム言語と並び、会計はビジネスパーソン共通言語であるといわれます。本講義では会計の知識を利用し、財務諸表から企業の現状を読み解く基礎的な手法について解説します。具体的には、代表的な財務諸表である、貸借対照表、損益計算書、およびキャッシュ・フロー計算書という3つの書類の構造を学習するとともに、これらの書類の相互関係について理解を深めます。さらに、企業が実際に開示した財務諸表を用いて簡単な企業分析を行います。

<特におすすめ>財務研修初学者、リーダー職の方



北川 教央 神戸大学大学院経営学研究科 教授

博士(商学)神戸大学

2008年神戸大学大学院経営学研究科准教授、2022年より同教授。専門分野は、財務会計。著書に『1からの会計(第2版)』(共編著)碩学舎など。

組織行動論

10.30(金)

多様性を活かし成果を生み出す、インクルーシブ・リーダーシップの実践

2つの企業の事例・ケースを読み込み、メンバーの力を発揮させるリーダーシップのあり方について議論する

年齢や性別、働き方やキャリアに対する価値観といった様々な点で、組織における多様性が高まっています。こうした状況において、リーダーにはそれらの多様性をうまく活かし、組織の力を高めることが求められています。本講義では、昨今注目されている「インクルーシブ・リーダーシップ」を含む、リーダーシップを中心に講義を行います。さらに、ケース討議を通じて、多様性を成果につなげるリーダーシップのあり方について、議論を深めたいと思います。

<特におすすめ>現場リーダー・マネージャー・管理職の方



砂口 文兵 神戸大学大学院経営学研究科 准教授

博士(経営学)神戸大学

2018年椋山女学園大学現代マネジメント学部専任講師、2022年同准教授を経て、2023年より神戸大学大学院経営学研究科准教授。専門分野は、組織行動論、経営管理論。

ビジネスエコノミクス

11.6(金)

経済学の分析モデルを企業経営の意思決定に活用する実用的知見

経営を「経済学」のレンズで捉えなおし、価格理論・ゲーム理論をベースに、戦略的なプライシングを行う

近年、経済学はその姿を大きく変えています。その変化の1つとして、ビジネスや経営の意思決定に役立てるための、実用的な体系として発展していることがあげられます。つまり、ビジネスパーソン皆さまにとっては、企業経営(業務)と生活の両面で深く結びついている学問ということになります。この講義では、ビジネスエコノミクス分野でこれまで学術的に得られてきた実用的な知見について学んだうえで、実際の経営ケースを用いて討議を行います。これらによって、体系的な理解を深めて身につけていきます。

<特におすすめ>価格戦略を担う方、営業、マーケティング、経営企画部門の方



松井 建二 神戸大学大学院経営学研究科 教授

博士(経済学)京都大学

2002年横浜国立大学経営学部講師、助教授・准教授を経て、2009年神戸大学大学院経営学研究科准教授。2014年神戸大学大学院経営学研究科教授。専門分野は、マネジリアルエコノミクス、経営科学。

戦略論

11.13(金)

戦略理論とスピンオフ企業の事例から読み解く、
新規事業創出の条件

戦略理論・フレームワークの基本を整理し、新規事業の拡大に
必要な考え方・意思決定・経営判断の視点を養う

世の中を見回すと、同じ業界にあっても「儲かっている会社」と「儲かっていない会社」があります。なぜ、差が出るのか。このシンプルな疑問を考えていくのが経営戦略論です。この講座では、儲け方の多様性について学んでいただきます。自社・自分自身にある「勝ち筋」「勝ちパターン」を見直していただきたいと考えています。また、市場の栄枯盛衰を考えると儲け続けるためには新規事業創出が欠かせません。日本企業におけるその重要な手段であった「分社」、最近では「出島」などとも呼ばれる、の成功に向けての方法論についても皆さんと議論したいと思えます。

<特におすすめ>戦略立案担当、子会社のリーダー・マネージャーの方



吉村 典久 神戸大学大学院経営学研究科 教授

博士(経営学)神戸大学

和歌山大学経済学部教授、Cass Business School (Bayes Business School), City University, London (City St George's, University of London) 客員研究員、大阪市立大学(現大阪公立大学)大学院経営学研究科教授、関西学院大学大学院経営戦略研究科教授等を経て、2025年10月から現職。博士(経営学)。専門分野は、経営戦略、企業統治、企業倫理。

技術経営(MOT)

11.20(金)

技術を基点としたイノベーションのための
組織と人材マネジメント

技術を顧客価値につなげる、
新事業・新サービスを創出するマネジメントのありかたを考える

技術経営(MOT: Management of Technology)とは、企業や社会の便益を高めるために技術を積極的に創造・活用・制御しようとする組織的活動のことです。不確実性が高く、多様な価値が求められる現代社会においては、技術力を高めて今ある製品やサービスを改良するだけでなく、これまでにない新たな価値を提案するために技術を創造・活用することが求められます。この講義では、技術経営の基礎的な枠組みを学ぶとともに、その知識を活かして、イノベーションを実現するために必要な組織と人材マネジメントのありかたを考えます。

<特におすすめ>企画・研究開発職、新規事業開発、経営企画担当の方



宮尾 学 神戸大学大学院経営学研究科 教授

博士(経営学)神戸大学

2000年サンスター株式会社入社、2011年滋賀県立大学人間化学部生活デザイン学科助教、2014年神戸大学大学院経営学研究科准教授。2023年より同教授。専門分野は、工業経営、技術管理、新製品開発、イノベーション。

プログラムの特徴 Program design

MBAの学びを凝縮したプログラムで、現場における判断・意思決定の質を高める

長年神戸大学 MBAで培ってきた、経営学を学ぶ効果的な手法を1日で完結するプログラムに凝縮しました。それぞれの科目は、まず事前課題としてケース討議の要件整理やディスカッションの準備等が課されます。そして講義では、各テーマ・科目の基本や土台を学ぶ「オーバービュー」、現代的・代表的なトピックを深掘りする「コア」、ここまでの学びを深める「ケース討議・演習」、そして「ラップアップ・質疑応答」で締めくくられます。経営の標準言語を学び自己流を打破し、実務をより高い視座から捉えなおせる構成となっています。

01

オーバービュー(80分)

学ぶ科目の全体像をつかむ

02

コア(80分)

科目に関する代表的なトピックを深掘り。神戸大学MBAらしい、やや専門的な内容の講義

03

ケース討議・演習(80分)

各機能部門の部門長・責任者レベルでの判断を疑似体験。事例を用いた討議で問題解決の扉を開く

04

ラップアップ・質疑応答(30分)

これまでの学びをふまえて、自身の課題と接続し、新たな視野・視点を獲得する

1日・1科目から選んで学べる参加型プログラム
(By the Job Learning)

講義は各科目1日完結で、全8科目の中からアラカルト方式で受講できます。毎回異なる参加者が各々の知見を持ち寄ります。議論を通じて、自分の思考の前提に気づき、多様な視点を得ることを目指します。

5科目以上の受講で「修了証」を授与

2026年は、全8科目のラインナップから5科目以上を受講いただいた方に修了証を授与します。2024年度は5名、2025年度は2名の方が修了証を受け取りました。

※MBAの単位認定ではありません



経営学のパイオニア「神戸大学」の叡智による 最先端の学び

神戸大学は日本で最初に経営学部を設置した大学として学界をリードしてきました。また、神戸大学 MBAは 36年にわたって 1,600人以上の MBAホルダーを輩出し、経営の実践とも深く関わってきました。学界で蓄積した理論知と MBAプログラムで培った実践知の融合。最先端の学びを提供する本シリーズは、このようなコンセプトから誕生しました。

ケース討議で問題解決の扉を開く

神戸大学 MBAの特徴の一つは、演習や討論を授業に取り入れていることです。先進的な取り組みから、国内外のビジネススクールで使われてきた伝統的なケースまで、様々な事例を授業に持ち込み、受講生同士で議論することを重視しています。事例を単なる「お手本」で終わらせず、討議で理解を深めて問題解決の扉を開く。これが、本シリーズのゴールです。今の職場である程度経験を積み、様々な問題があることに気づきはじめて、どうするかと考え、ビジネス書や経営学の教科書を手に取ってみたいが、いまピンとこない。そのような方に、ぜひ受講していただきたいと思います。

神戸大学大学院経営学研究科 教授
宮尾 学

社会人教育のプロ「インソース」が アカデミアとビジネスをつなぐ

株式会社インソースは、2023年4月、神戸大学大学院経営学研究科との産学連携による教育研究拠点として、「人的資本経営研究教育センター(インソース創業20周年記念寄付センター)」を設立しました。当センター設立を機に、最先端の経営理論をもって、ビジネス課題の解決にあたる人材の育成を目的に、現代経営学研究所(RIAM)との共催で開始した本シリーズも今回で3期目になります。これまでに賜った多くの方々からのご支援に心より御礼申し上げます。

ビジネスパーソンとしての 視座を高める経営知識の獲得

様々なビジネスの難問への対応が求められるビジネスパーソンに必要なのは、流行りの表層的な言説に振り回されることなく問題の本質を捉える深い洞察力です。「よい理論ほど実践的なものはない」。これは社会心理学者クルト・レヴィンの言葉です。本シリーズでは、我が国における経営学のフロントランナーである神戸大学の先生方を講師とし、深い洞察力、すなわち「よい理論」に裏打ちされた実践知の習得を目指します。

株式会社インソース 取締役執行役員 CFO
株式会社インソース総合研究所 代表取締役社長
神戸大学大学院経営学研究科 客員教授
藤本 茂夫

開催概要 Outline

開催期間 2026年 10.2(金) ~ 11.20(金) 毎週金曜日 13:00~18:00

1科目
48,000 (税込) 円/名



会場 インソース有楽町セミナールーム
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル北館 6階

対象者
・ 30~50歳程度のビジネスパーソン、マネージャー / 次世代リーダー層
・ MBAや経営学に興味・関心のある方

開講科目
経営哲学、マーケティング、ビジネスデータ分析、財務会計、組織行動論、
ビジネスエコノミクス、戦略論、技術経営(MOT) 全8科目
※1科目から受講可能 ※事前課題あり

〈主催〉株式会社インソース、NPO法人現代経営学研究所(RIAM) 〈後援〉神戸大学大学院経営学研究科



詳細・お申込みはこちらから
https://www.insource.co.jp/bup/riam_business_school.html

各科目の詳細ページよりお申込みください
(開催日の6営業日前まで)
※複数科目受講する場合も、1科目ごとのお申込みが必要です

お問合せ Inquiry

✉ info_iri@insource-ri.co.jp ☎ 03-6206-3671 (平日9:00~17:00)

株式会社インソース × RIAM ビジネススクール 事務局(株式会社インソース総合研究所内)

〒105-0004 東京都港区新橋 2-5-5 新橋2丁目MTビル3階

